

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
専門学校静岡電子情報カレッジ
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施し、まとめた平成 28 年 3 月 10 日付「自己点検・評価報告書」を元に、学校関係者評価を行いました。

なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

平成 27 年度学校関係者評価委員及び事務局

<企業人>

長坂 祐二 氏 アイティ・インターナショナル株式会社 代表取締役
池谷 和彦 氏 SSB ソリューション株式会社 専務取締役

<卒業生>

知又 史郎 氏 静岡情報処理センター株式会社 医療ソリューション事業部 システム部
桜井 幸寿 氏 株式会社富士データシステム 開発部開発課 課長
代理 同社 取締役総務部長 齊藤 重雄

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長
有賀 浩 教頭・教育部長
中村 健太郎 教育改革推進室長代理
鈴木 正章 教務課長・ICT 映像・音響デザイン学科長
早崎 賢治 テクニカル研究（専攻）科長・ICT 情報システム学科長

1. 教育理念・目標

【現状と問題点】

・常に教員自らが校訓と「建学の精神」、そして創設者が残してくださった「激」を顧みて「挨拶を基調とした全人教育」に当たっているが、学生の社会人基礎力は低下しており、挨拶や時間厳守といった基本に関する指摘を受けることが増えてきている。

・本学オフィシャルサイト（ウェブ）、ホームルーム・教員室に「建学の精神」「校訓」を掲示。また各学科の教育方針を当該クラスの掲示板に明示している。

・朝礼においては理事長・校長から教職員に対して、また担任教員から学生へは日々のショートホームルームを通して、挨拶を基調とした全人教育を徹底。

・全ての合格者に対し「建学の精神」「校訓」「教育の理念」の理解を入学前の課題とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・AO 入学選考の事前指導、進路面談、ステップアップレッスンにおいて、アドミッションポリシーの理解を指導。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学生生活において学生にわかる言い方で指導していくことに加え、実習、就職活動といった学生生活の節目、節目において学生個々の目的や力量に応じた指導を行い、社会人基礎力を高めていく。 ・情報通信系専門学校としてスタートしてから 30 周年を迎えるにあたり、記念事業、同窓会総会等を企画・実施する。 ・挨拶をはじめ、学生が本学の理念や校訓を常に意識し、職業人として必要な基礎力を身につけられるよう指導が必要。また、教育目標が実現できているか定期的な点検を行う。 ・「校歌」を歌う機会が少ないので、SHR の開始時に放送で流すなど、全ての学生が十分に歌えるように指導を強化する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への人材輩出 30 周年を迎えられたことに敬意を表する。 ・企業の場合は「品質第一」であり、ダメなとき、欠落しているとき、どんな弊害があるのかを明示している。教育においても同様に感じさせることが肝要であり、教育理念が単なる看板にならないようにしていただきたい。 ・企業においては「安全第一」「利益・納期・品質」等、たくさん大事なことがあるなかで、究極の第一はこれ！ということを明確にしている。 ・各項目のプライオリティーを明示すると理解しやすいと思う。 ・挨拶が普通にできることは大変重要である。営業職、開発職関係なく朝の挨拶で自分にも勢いがつき、コミュニケーションがとりやすくなる。 ・コンプライアンスは企業でも教えられる部分があるが、シンプルな挨拶はやはり最重要で、学校で身に付けておいてほしい。 ・教育の根幹が集約されたものである「校歌」をイベントの都度、歌うと良い。メンバーの結びつきが強まり、仲間を大切にしている気持ちも高められる。
2. 教育活動	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不良者への個別指導を早い段階から行い、学習意欲の喪失から退学者を出すということがないように指導したが、退学者を減らすことができなかった。 ・学生指導の指標として「学生の手引き」を編纂、全学生に配布し、年度当初から内容の徹底を行っている。 ・「職業とキャリア」科目を一部クラスで授業を実施した。 ・産学連携教育の推進 「職場見学」においては文部科学省委託事業で共同研究を行う企業との情報交換が実現できた。直接出向いて企業人から指導を受けるとともに、現場の様子を目の当たりにすることができた。 ・静岡市の「シズオカ型オープンデータ推進」にあわせて、官学連携によるゼミナール活動に注力した。結果、作成したスマートフォンアプリは「シズオカアプリコンテスト」において学生部門「優秀賞」という成果を挙げる事ができた。 ・学力が著しく低い学生の個別指導にかなりの時間を要するが、日々の鍛錬（プリント課題、プレゼン課題）で向上を図ることができている。 ・草薙総合運動場「このはなアリーナ」でスポーツ大会を実施。学生同士友情を深めることができた。また学生会主体による企画・準備・運営を進められたことで、役員や大会運営の委員など、多くの学生が成長する機会となった。 ・企業から頂いたプロモーションビデオ制作課題では、学生グループが取材・撮影・

	<p>企画・制作を実施。その成果を発表会で企業人に評価いただくとともに、完成させた作品を YouTube にアップロード、公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の企画発表、中間報告、最終発表等、プレゼンテーションの機会を増やすことで、学生のプレゼンテーション能力向上が図れた。 ・静岡 IoT 活用研究会への加入、IoT 総合技術展（横浜パシフィコ）見学、ロボット展（東京ビッグサイト）見学等、IoT をキーワードにロボット・組込み系の技術教育活動を進展させた。 ・Web 上で回答、情報収集可能な授業アンケートシステムを構築。スマートフォンにも対応。今年度は試行ながら全学科・全学年の学生が回答した。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学理由を明確化し、その対応が的確にできるよう、教員自身の指導力を向上させるため、学内外での研修を強化する。 ・「職業とキャリア」科目を全学科に導入。グループワーク演習を通じてコミュニケーション能力を向上させる。 ・アクティブラーニングの手法について全教員が研修・研鑽を重ね、授業運営に活かす。 ・授業アンケートの結果を省みて、シラバス・コマシラバスの見直しから授業全般の改善を図る。 ・職業実践専門課程認定学科としての責務を果たす。 ・教員の専門分野技術向上の及び教育力向上のための研修の機会を増やす。 ・半期に一度、シラバスの整備状況を確認。コマシラバスの充実を図る。 ・インターンシップ等、産学連携教育プログラムに臨むにあたって、より教育効果が高められるよう、学生事前指導を一層強化する。特にコミュニケーション能力に不安のある学生については早期に学外での経験を積ませる。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業においても評価してもらうことが社員のやりがい、モチベーションの維持につながっている。貴学における産学連携教育プログラムでは数多くの評価の場を設けているので大変良いことだ。またチームワーク、気持ちの交換、コミュニケーション向上にも寄与している。 ・状況を相手に伝えられることが重要。 ・正解を求めるのではないワーキング、アクティブラーニングには大いに期待したい。 ・「職業とキャリア」教えるのが難しいと思われるが、やりがいのある仕事のイメージ付けに重要と考える。 ・個別指導の大変さは十分推察できる。日々声をかけ続け、会話による情報交換を行うしか手立てがない。特に今の時代の若者に対しては。 ・学生に自発的に発言させることはたいへん良い。是非違うクラス同士でグループワークをして欲しい。 ・企業における名刺交換から始まり、度重なる打合せを経て人的ネットワークを拡大していく、そういったトレーニングになる。
<p>3. 学生受入れ</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・従来「情報システム」をキーワードに学科を構成してきたが、学習者が職業をよりイメージし易くなるように学科を改編。「ロボット」「ゲーム」を学科名称に付した。入学者増にもつながっているが、特にロボットについては入学者数が少なく、啓蒙活動も含めて広報面の強化が必須である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・企業人、卒業生を招いてのイベントを企画・実現。活況なイベントとすることができた。また各分野の卒業生から直接高校生等に業界の話ができ、参加者の満足度が大変高かった。 ・オフィシャルサイトに産学連携教育プログラムの成果を掲載し、本学の魅力を広く伝えた。 ・「未来発見！お仕事体験フェア」を開催。卒業生を中心とした業界人を招いて、様々な仕事体験できるイベントを行ったところ、小中学生や親子による参加がみられ、分野に興味を持たせることができた。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学科「ゲーム応用学科」「ロボット創造学科」の産学連携強化を図る。連携先は県内に限定しない。 ・高校生等ばかりでなく、小中学生も積極的にオープンキャンパス参加を受け入れ、当該分野の仕事に対するイメージ付け、職業観養成を図る。 ・現在情報発信の中核がPC向けオフィシャルウェブサイトとなっているが、昨今若い世代のPC離れが急速に進んでいることから、授業や産学連携教育プログラムの成果、現場実習等の情報をスマートフォンで見られるよう、レスポンスなデザインに改編する。 ・ブログやSNSでの情報発信が十分とは言えない。適切なタイミングで情報を伝えられるように改善を図る。 ・本館（南町キャンパス）、2号館（森下町キャンパス）のロビーに設置しているテレビをデジタルサイネージ化し、来校者への情報発信を強化する。 ・オープンキャンパス参加者からの出願率を向上させる。複数回参加しやすくなる企画・内容を提供する。またSNS投稿サイトの仕組みを活用した動画コンテスト等を企画・実施し、本学の知名度を向上させる。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活の楽しさを伝える工夫が必要。 ・技術志向ばかりでないで、「可能性を開かせていく」イメージを持てるようにICT分野の就職先は多岐にわたるので、出口（就職）のイメージについて、わかりやすく見せる工夫を。 ・卒業生に「いきいきと働いている様子」を伝えてもらう（専門分野だけでないことを伝えたい）。 ・より身近に感じられるように「一緒にやりましょう」「ウェルカム感」「学生や教員の見せ方」。かえて「スペシャリスト」「エキスパート」色を薄くするのもよい。 ・企業においては「良い会社」＝先輩が優しい、上司がフレンドリー、という表現を使っている。またそのコンセプトでPR動画も制作している。 ・イメージ戦略として「良い仲間と楽しめる」を伝えることに集中する。 ・ロボットをテーマとした学科には企業側からも大いに期待する。パソコン内部やネットワークの仕組み等、インフラに関わる部分の需要は大きい。特に基板回りのテクニカルスキルは会社でも重宝され、就職先の幅が広がる。
<p>4. 教職員組織</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務全般のシステム化が推進でき、成果を挙げることができた。 ・組織的に教員研修を進めることができた。 ・静岡情報産業協会の事業企画委員会に参画。市や地元企業との情報交換を深めることができた。 ・ゲーム開発企業で行われている勉強会に月2回参加し、開発技術を吸収すると

	<p>もに業界の最新技術動向を知ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音響現場、映像制作現場に出向いて、企業人との情報交換を行うことができた。 ・「ウェアラブルデバイス」をテーマに、企業人と本学教員と連携した研究会を本学内で実施。地元企業団体に向けて研究成果をプレゼンテーションした。 ・「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」等、新しい教育システムについて公益社団法人静岡県職業教育振興会主催による研修会、講演会に参加し、理解を深めることができた。 ・県外大手専門学校との連携により、教育サービスの指標や評価方法について研鑽を重ねることができた。 ・外部研修の成果を教職員で共有するため、学内研修の機会を増やした。 ・企画・計画の実施にあたって、業務の遅滞がみられる部署があった。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれに研究テーマを持ち、学外の研修や研究事業に積極的に参加するとともに、関連企業や企業団体との情報交換、交流を一層深める。 ・講師を招聘するなど、学内における研修も強化したい。 ・SNS やクラウドサービス導入で、教職員の ICT 利用を活性化させ、業務の遂行について迅速化を図る。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍する卒業生との連携を一層深めてほしい。特に 30 代後半ぐらいの世代。 ・部下・後輩に何を望むか、技術のトレンド以外の部分でどういう特性があるのか、情報交換を。 ・複数の卒業生同士の座談会なども有用。 ・企業としては教員の研修も受け入れる。現場で吸収して頂いたものを教育の現場に活かしてほしい。
5. 施設・設備等	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・経年変化により発生する不具合箇所を修繕した。 ・高速インターネットを導入しているが、無線 LAN の信頼性があまり高くない。 ・オープンキャンパスではタブレットを活用することで効果的な体験授業を行うことができた。 ・高品質な映像制作のため業務用ビデオカメラを導入した。 ・学内共有ディスク（NAS）が旧くなったので新システムを導入した。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・学科規模やコースの適性等に配慮した教室利用計画を実施する。 ・複数のアクセスポイントによる干渉が起きていないかを調査し、チャンネルの再設定を検討する。 ・新しく導入した設備を有効利用する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・学内設備を活用して身につけられたスキルをインターンシップ等で活かし、定着させてほしい。 ・様々な機器をスムーズに使えるような環境の準備を。 ・教育機関としては珍しい高速インターネットが備えられている。コストパフォーマンスを高めるためにも活用について一層研究されたい。
6. 学生生活支援	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・学生指導の指標として「学生の手引き」を編纂、全学生に配布し、年度当初から内容の徹底を行っている。 ・担任レベルで日頃から学生の個別指導を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・例年に比べてアルバイトしている学生が減り、放課後等の自主学習を行う姿が多く見られた。 ・心理的な面から体調を崩す者があったが、時間をかけて個別指導を行い、乗り切ることができた。 ・就職活動において「自走」できない学生がいる。求人票の活用や外部イベントへの参加が不十分である。 ・困窮家庭・学生に対する国からの支援を本学独自の奨学金制度に組み込んだ。 ・緊急災害時に対応するため、非常用トイレや防災備品の使い方について学内研修を実施。また備蓄している食品・飲料水を確認した。学生本人及び家族の避難方法・時期・場所等の明確化が不十分である。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・「修学ポートフォリオ」（1週間の行動履歴、各期の到達度自己評価等）を導入し、学生の自立を支援する。 ・「就職活動イベント」情報の学生への周知・参加指導を強化する。また外部機関との連携を深める。 ・防災対策について、市役所、地元自治体、地域企業との連携を図る。 ・緊急災害時における学生家族の避難方法・時期・場所等に関し、各家庭内で話し合いを行い、その概要を「学生指導記録」に明記する。 ・奨学生には、他の学生にも良い影響が与えられるよう個別に指導を行い、成績評価の水準が一定レベルであるべきことを知覚させる。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時用の備蓄品で消費期限が近づいたら引取先へ連絡してはどうか。未だ食生活に苦勞している人たちに向けての生活支援等ニーズがある。 ・安否確認については大手警備会社のシステムを検討されてはどうか。 ・専門学校使命として就職活動支援がやはり重要。企業側として人材確保のためにも個人差を見極めた指導をお願いしたい。 ・就職活動支援の様々な仕組み（各種就活支援サービス）の一層の活用を是非。 ・インターンから就職につながっているケースも多々ある。積極的なエントリーを期待する。 ・就職活動の手順をフローチャートで明確にする。時系列から逆算して、いつまでに動かなければと徹底させておくとよい。
7. 管理・運営	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・不要になっている書籍・書類、什器備品等を廃棄し、学内の整理整頓が進んだ。 ・成績等、学生指導情報については鍵付きロッカーにて厳重に管理している。 ・電子データ化された個人情報、パスワード及び暗号化により保全。 ・一部業務委託していたオフィシャルウェブサイトの編集については完全に学内だけで行えるよう、体制を整備した。 ・Windows 8 のサポート終了に対し、一部残っていた当該 OS のパソコンを全て Windows8.1 にアップデートした。 ・従来利用してきたホスティングサービスの DNS サーバー変更により、一層セキュリティレベルが向上している。 ・Windows Vista のサポート終了が 2017 年 4 月に迫っていること、性能面が厳しくなってきたことから、教職員用や学生貸出用の現行パソコンのうち、古い機種を新しく整備した。 ・個人情報保護について学内研修で周知徹底を図っている。

【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要な書籍や書類等が増えないように、定期的かつ計画的に廃棄する。 ・ 業務効率化のため、学内へのグループウェア導入を検討する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報漏えいに対するコンプライアンス強化を。ミスより意図的、悪質な情報漏えいが増えている。 ・ ちょっとした漏洩も世の中は厳しく見る。個人情報管理の意識づけが重要。 ・ モラル教育に重点を置き、eラーニングを活用するなど、繰り返すことが重要。 ・ グループウェアを提供している地元の企業もあるので、導入検討の候補に入れてはどうか。
8. 財務	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。 ・ 予算の編成は、予算単位で事業計画と予算案を策定している。 ・ 予算の執行にあたっては所轄する部署でチェックする体制を構築している。 ・ 寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。 ・ 財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。 ・ 収益事業の一つである「離職者訓練」においては講座受託価格（入札制度）が著しく低下している。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集において、学生増を図るため、広報活動に一層の重点を置く。 ・ 産学官連携を活用しながら非 18 歳人口や卒業生、社会人が学びやすい教育環境を整備する。 ・ 子どもの論理的思考を助長するためのプログラミング講座、シルバー世代向けの生活・趣味に活かせる IT 教室等を開講し、地域への貢献を果たす。 ・ 企業人社内研修等を本学に誘致する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集に一層の注力を。生涯学習の中でも IT の役割、需要は大きい。地元企業側も応援したい。 ・ 公的な助成を利用し、中小企業のグループ等との連携で企業研修を計画してはどうか。また、セカンドスクール的なものとしてシルバー世代のニーズも考えられる。

以上